

第24回アルコール健康教育研修会

日時：平成26年8月22日（金）

場所：東京工科大学蒲田キャンパス 3号館10階31001号室

<研修内容>

基調講演 アルコールをめぐる最近の話題

公益社団法人アルコール健康医学協会理事長 玉木武 先生

健康日本21にかかげる飲酒関係の目標として平成12年から10年後の数値目標を定め、メタボリックシンドロームのリスクを高める多量飲酒者の減少、妊娠中の飲酒をH26までに0%とし国民に実施を求めた。

未成年者の飲酒は学年が上がるに従って増加するが平成8年からは全体的に減少傾向である。未成年者の飲酒防止の理由として勉学への影響、性差の障害、依存症からの障害であると講演された。

講演Ⅰ アルコールの生体影響

山野医療専門学校教頭・元東邦大学医学部講師 今井常彦 先生

未成年者の飲酒の減少を具体的数値として示された。

中3男子（平成8年）26%⇒（平成21年）8%

高3男子（平成8年）53%⇒（平成21年）21%

健康日本21に掲げる目標を達成するため具体的な防止対策に取り組んだ成果である。飲酒による痛風予防のセルフケアとして肥満の解消、アルコールを控える、水を十分に飲む、軽い運動をする、精神的ストレスを発散させると唱えられた。

講演Ⅱ アルコールと健康

東邦大学医療センター大森病院総合診療科 教授 瓜田純久 先生

アルコールと胃炎（ピロリ菌）、アルコールとお茶、アルコールと糖、アルコールとウコン、アルコールとお酢、アルコールとつまみ、アルコールと網膜剥離、アルコールと下痢、アルコールと認知症について具体的に話された。

実践報告と意見交換

コーディネーター 日本体育大学特別講師 井口一成 先生

実践報告者 豊島区立要小学校主任教諭 花谷眞利子 先生
DVD を活用し食べ物とアルコールや薬の消化・吸収の仕方のちがいを示した。
掲示資料を活用しアルコールの吸収の仕方を生徒に示したと報告された。

川口市立小谷場中学校養護教諭 深井佑利子 先生
飲酒体験ゴーグルを使用し実際の酩酊状態を生徒に体験してもらった。
アルコールパッチテストを実施し自分の体質を生徒に理解してもらったと報告された。

千葉県立浦安南高等学校教諭 国吉恵一 先生
飲酒運転によって実際に起こってしまった福岡県の事故を具体的に伝え、他人
事ではないこと、他者の意見を聞く姿勢、自分の考えを主張できることを生徒
にアプローチしたと報告された。

一般社団法人東京都学校薬剤師会理事 朝木多貴子 先生
都薬で使用しているスライドを用い、飲酒防止教育を行なっている旨の報告を
された。

報告者：岩国支部 河田尚己

第23回薬物乱用防止教育研修会

日時：平成26年8月23日（土）

場所：東京工科大学蒲田キャンパス 3号館10階31001号室

<研修内容>

教育講演 薬物乱用防止教育の進め方

神戸大学名誉教授 石川哲也 先生

「なくした自由」というDVDを鑑賞した。これは十数年前に全ての高等学校に配布したもので薬物乱用者の実態のドキュメントである。薬物中毒者の受入施設での現状がドキュメントで納められており、インパクトのある映像であった。薬物乱用によって失うものは“自由、健康、信頼”。薬物による具体的な検挙数の提示から再犯率が高いことがわかった。

教育講演2 喫煙等薬物乱用をどう教えるか

青少年喫煙等健康問題研究会代表 小林賢二 先生

今現在、若者を取り囲んでいる問題は何⇒ IT,スマホ、性、ドラッグ、ラインいじめ、投稿いじめ、画像加工いじめ等々。全てが薬物乱用に関係している。最近は特に6月に起きた乱用者による池袋の事件があつてから名称変更になつた危険ドラッグが横行している問題がある。どう自分を守るのか、どう逃げるのか。それには「あぶない」を事前に知り、察し、感じる、回避する能力を身につけることが必要である。もし、直面してしまつたら自分だけの問題にしないで必ず友達や先生・親に相談し助けを求めること、売人は裏社会に通じているから怖いということを説明して頂いた。

研究講演 最近の薬物乱用の現状と薬物対策

関東信越厚生局麻薬取締部捜査第一課長 牧角一信 先生

乱用薬物の種類をひとつひとつ丁寧に説明された。特に近年問題になっている危険ドラッグの最新情報を教えてくださった。危険ドラッグの問題点として含有物質が不明で危険性が高い、麻薬と同等の危険物質が存在し多くの事件・事故に繋がっている。また取締りが困難で公然と販売されている。値段が安く気軽に購入でき抵抗感が薄く乱用が拡大した。規制後にまた類似物質が流通しいたちごっこの状態であるということだった。なので薬物乱用防止には正しい知

識を持ち薬物問題に関心を持ち、薬物乱用のリスクを知ることが大事であると訴えておられた。

実践報告と意見交換

コーディネーター 国士舘大学非常勤講師 村木久美江 先生

実践報告 豊島区立要小学校主任養護教諭 松並富美江 先生

薬物の事前アンケートを生徒に実施し学習意欲を高めた。授業展開としては薬物乱用のクイズやDVDの利用や最近の話題でMDMA,危険ドラッグの話をする。今後は6年生で薬物乱用防止教育をする前に5年生でくすり教育をすることが有効であると考えたと報告された。

川口市立鳩ヶ谷中学校養護教諭 小早川真貴子 先生

平成26年度からは薬物乱用非行防止教室と名称を変えてインターネットや携帯電話による事故や非行の話を交えて授業を行なったと報告された。

千葉県立浦安南高等学校教諭 国吉恵一 先生

芸能人や有名人の薬物乱用による事件からディスカッションを中心とした授業をすすめている。高校生が自分の意見を言っていく方法論のひとつと考えると報告された。

一般社団法人東京都学校薬剤師会会長 井上優美子 先生

都薬で作成した薬物乱用防止教育用の資料についての紹介があった。台湾にある薬物乱用防止展示館の見学を学薬でされた話を報告された。

報告者：岩国支部 河田尚己